

議 長	局 長	次 長	総括主査	総括主査	課 員	担 当

### 第 3 回 議 会 改 革 推 進 会 議 会 議 記 録 簿

開 催 日	平成 26 年 5 月 29 日 (木)	場 所	特別会議室
開催時間	午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分	休憩時間	午後 2 時 50 分～午後 3 時 00 分 時 分～ 時 分
出席委員	全 員 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">欠席 1 名</span> ( 下館祥二副座長、 委員、 委員)		
その他 出席者	早稲田大学マニフェスト研究所 招聘研究員 佐藤 淳 氏	事務局 出席者	大森正則事務局長、嵯峨一郎次長、 田高慎総括主査、長内紳悟主任

(適用・要旨)

<p>進行：座長 八重櫻議長</p> <p>○案件</p> <p>(1) <b>かだって会議に関する指導・助言について</b></p> <p>ダイアログテーマ「かだって会議をどのような場にしたいですか？」</p> <p>A 班：八重櫻座長、小倉委員、小野寺委員、山口委員</p> <p>B 班：澤里委員、堀崎委員、桑田委員、小柳委員</p> <p><b>【ダイアログを踏まえた講評、決定事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 テーブルは 4～5 人とする。6 人以上になると手を抜く人が出てくる。</li> <li>・ お菓子や飲み物を出し、飾り付けやテーブルクロスを敷くなど、リラックスした雰囲気を作るのが大切。</li> <li>・ 会議テーマは、最初は簡単で前向きな楽しくなるようなテーマを設定したほうがいい。難しいテーマは回数を重ね、慣れてからにしていく。</li> <li>・ 参加メンバーは、いろんな世代や考えの方に集まってもらうため、無作為抽出がいい。公募だとクレマーに偏る可能性があり、建設的な話し合いにならない。無作為抽出で案内をかけ、来ていただける人をメンバーとする。メンバーの年齢構成や男女比は、久慈市の人口構成と同じようにする。</li> <li>・ 会議人数は 5 人×5 テーブル、5×6 テーブルの 30 人程度がいい。15～20 人では少ないし、40～50 人では多い。議員は 1 テーブルに 1～2 人で全体の 3 分の 1 程度がいい。</li> <li>・ あらかじめ話し合いのルールを設けたほうがいい。そうでないと、喋りっ放しやまったく喋らない人が出たり、テーマとは関係のない話に飛んでしまう。</li> </ul>
---

- ・初回の司会（ファシリテーター）は佐藤先生に行ってもらおう。最終的には、議員や市民が行っていけるようにする。また議会事務局が行ってもいい。
- ・8月開催に向けて、7月に佐藤先生を迎え議員だけで模擬かだつて会議を行い、その反省や成果を踏まえて本番に臨む。
- ・開催に向けてダイアログセットを揃えておく。（大きめの付箋、太めのペン、模造紙など）
- ・議員だけでかだつて会議を運営しようとするのではなく、市民と一緒に運営していくことが大切。付箋に書き出したり、模造紙にまとめる作業が得意な市民もいる。
- ・議員間討議や議会報告会もこのような会議スタイルで行えば、沢山いい意見が出る。このようなやり方にすれば決して変な意見は出ない。4～5人という少人数のいいところである。大人数になるほど変な意見やクレームは出やすい。
- ・テーマ設定が大切なので今後しっかりと検討が必要。
- ・開催は休日の昼で女性が集まりやすいほうがいい。
- ・初回は8月23日（土）に土風館多目的ホールで開催する。

## (2) 議会活動の検証に関する指導・助言について

ダイアログテーマ「議会活動の検証作業はなぜ必要なのでしょうか？」

A班：八重櫻座長、小倉委員、小野寺委員、山口委員

B班：澤里委員、堀崎委員、桑田委員、小柳委員

### 【ダイアログを踏まえた講評、決定事項】

- ・活動成果を確認できるということは、成果が上がっていない部分も把握でき、問題・課題に繋がっていく。そこからさらなる改革に繋げていける。
- ・条例制定して終わりではなく、条例どおりに活動できているか検証・確認の必要があるし、そこに問題・課題があれば、条例改正も必要。
- ・議員または議会改革推進会議が自己検証・評価することがまず必要。それだけでは手前味噌になるので、第三者評価が必要となってくる。専門家（早大マニフェスト研究所）が評価したり、また市民に評価してもらい、その結果を市民に見てもらうことが大切。議会報告会の場で検証結果を報告してもいい。
- ・まずは6月中に評価シートを埋める必要がある。事後の検証作業は予算要求前の12月であったり、年度末の3月が考えられる。
- ・北海道福島町の議会・議員評価のやり方を参考に、どのように行っていくかしっかりと検討が必要。
- ・定例議会ごとに評価できるのであれば進捗も把握でき、さらに効果が高い。